

氏名	KANG SUK KYEONG
授与した学位	博士
専攻分野の名称	環境学
学位授与番号	博甲第4864号
学位授与の日付	平成25年 9月30日
学位授与の要件	環境学研究科 社会基盤環境学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文の題目	トルコの南東アナトリア地域における綿花栽培導入による地域社会の変容
論文審査委員	教授 金 科哲 教授 市南 文一 准教授 生方 史数

学位論文内容の要旨

トルコの東部地域と西部地域間の社会・経済的な地域格差は大きい。西部地域と比べ、東部地域は相対的な貧困地域で、社会経済開発の進展が遅れている。とくに南東アナトリア地域は水資源として利用可能なチグリス・ユーフラテス川と平原地帯を擁しているにも関わらず、農業の進展は見られなかった。この地域の社会経済発展が遅れている原因としては、半乾燥気候であることと複雑な民族構成、血縁・地縁関係を基盤に形成された部族集団（アシレット； Aşiret ; tribe ）中心の文化・社会構造が挙げられる。

近年、南東アナトリア地域では、地域格差の緩和と社会統合を目的とする政府主導の開発計画が建国以来、最大規模で推進されている。拠点開発によるインフラ構築および多方面での集中的な投資により、地域経済は画期的に変化を遂げている。とくに、開発計画以前(1985年の統計)、経済活動人口の約70%が従事した農業は、灌漑用水の供給により、「第二の農業革命」と呼ばれるほど、注目すべき成長を遂げた。かつて天水に依存した自給的な乾燥農業は、灌漑用水の供給により綿花栽培を中心とする商業的な灌漑農業へ変化し、南東アナトリア地域はトルコの代表的な綿花産地へ変貌した。

本研究では、アシレットを中心とする社会組織を温存させながら、自給的な半乾燥農業から灌漑農業へと急激な変貌を遂げたトルコの南東アナトリア地域を対象に、当地域における綿花栽培拡大の過程と農家の対応を明らかにすると共に、水資源の開発と利用、出稼ぎによる綿花栽培を中心に地域社会の変化を解明した。また、アシレットを中心とする南東アナトリア地域の社会的な特徴を検討し、トルコの他の地域とは異なる南東アナトリア地域の‘地域性’の究明に努めた。なお、具体的な調査対象は、南東アナトリア開発計画の中心軸として選定されたシャンルウルフア県と、灌漑事業のモデル地域として選ばれたハラソ平原を取り上げた。

半乾燥気候下の灌漑農業において極めて重要な灌漑用水の管理権は、地域農民の参加と効率的な管理を目指して政府から民間である水利組合へ移管されたが、アシレット中心の階層的な社会構造により、農民の参加は妨げられており、アシレット間の勢力争いの場になっている。また、農業形態は、灌漑用水の供給直後、ほとんどの農家で綿花の単作が行われていたものの、近年には綿花価格の下落と栽培コストの上昇により、綿花と小麦・トウモロコシ、野菜に分けて作付する耕地経営の多角化が現れている。さらに、灌漑事業以前には県外の綿花産地への出稼ぎ人口流出が多かったが、灌漑以後には一変して、出稼ぎ流出が大幅に減少し、出稼ぎ先においても県内の綿花栽培地域を中心とする移動となっている。

一方、地域住民においてアシレットの所属は、共同体意識と連帯感を感じる肯定的な面がある反面、階層的な社会構造により個人意見の収斂が難しいことと民主化されてないことが問題点として指摘された。また、近年の綿花栽培による住民の経済的な自立と開放的な経済活動により、アシレットの影響力は次第に弱くなっているが、水利組合の運営がアシレットを中心に行われているため、近年のアシレットは新たな形態として地域社会に影響力を行使している。しかし、かつて閉鎖的であった地域社会が開放的な農業経済社会へ変化したことにより、従来の社会・文化に関する住民の伝統的な意識構造が変化しているため、今後の地域住民のアシレットに対する意識構造は大きく変化すると予想される。

論文審査結果の要旨

本研究は、複雑な民族構成を背景に、血縁・地縁関係を基盤に形成された部族集団であるアシレットを中心とする社会組織を温存させながら、自給的な半乾燥農業から灌漑農業へと急激な変貌を遂げたトルコの南東アナトリア地域を対象に、当地域における綿花栽培拡大の過程と農家の対応を明らかにしている。その際、水資源の開発と利用や出稼ぎによる綿花栽培を中心に、地域社会の変化を徹底的なフィールドワークを通じて解明した。その主な成果は以下の通りある。すなわち、近年トルコの南東アナトリア地域では、建国以来最大の開発計画が進められ、拠点開発によるインフラ整備と農業への集中的な投資が行われてきた。その結果、従来は小麦、大麦、レンズ豆を天水に依存して自給的に栽培する半農半牧で生活を営んでいたが、開発計画以降の南東アナトリア地域には灌漑用水の供給により、商業的な綿花栽培が導入され、トルコの代表的な綿花生産地へと変貌した。しかし、半乾燥気候下の灌漑農業において極めて重要な灌漑用水の管理権は、地域農民の参加と効率的な管理を目指して政府から民間である水利組合へ移管されたが、アシレット中心の階層的な社会構造により、農民の参加は妨げられ、アシレット間の勢力争いの場になってしまった。近年の綿花栽培による住民の経済的な自立と開放的な経済活動により、アシレットの影響力は次第に弱まっているが、水利組合の運営は依然としてアシレットを中心に行われており、飛躍的な農業生産の向上にもかかわらず、強硬な社会的組織の存在が、さらなる地域社会の発展を妨げていると言える。

以上、本研究で得られた成果は、灌漑農業の導入により急激な地域変化が起きているにもかかわらず、不安定な国際政治状況と伝統的な部族組織の存在により、十分にその実態が明らかになってこなかったトルコ東部の半乾燥地域における農業と地域変化に関して新たな知見を与えるものと評価できる。よって、本論文が博士（環境学）の学位論文に値すると認定する。